

令和7年度

幼稚園教員資格認定試験

幼稚園教育の実践に関する科目

注意事項

受験者は、下記の注意事項に従うこと。それ以外の注意事項は全て試験監督者の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 受験番号及び氏名を解答用紙の指定された欄に記入してください。なお、受験番号及び氏名は2枚とも必ず記入してください。
3. 解答は、全て所定の欄に記入してください。指定された欄以外に記入されたものについては、採点対象となりません。
4. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから90分です。
5. 試験が終わるまで退室できません。
6. 試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。
7. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
8. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。

問 1 環境を通して行うことを基本とする幼稚園教育においては、幼児の自発的な活動としての遊びを中心とした教育を実践することが何より大切である。そのために教師には、幼児の自発的な遊びを生み出すために必要な教育環境を整えることが求められる。また、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児と共によりよい教育環境をつくり出すことも求められる。

そのために教師は、次のような役割を果たさなければならない。

- ① 教材を工夫し、物的・空間的環境を構成する役割
- ② その環境の下で、幼児と適切な関わりをする役割

この役割を果たす上で重要なことをそれぞれ記述しなさい。なお、記述するにあたっては、下記の語句を参考とするが、使用は必須ではない。

【語句】

「遊び」 「ものとの関わり」 「物の質や量」 「空間」

「教材」 「精選」 「幼児理解」 「共同作業」

問 2 次の文章は、ある幼稚園の5歳児と小学校1年生の交流活動の計画、交流の流れ、及び交流活動の様子を示したものである。1学期の交流活動における指導について、下記の(1)～(4)の問い合わせに答えなさい。

ある幼稚園の5歳児は、小学校1年生と年3回の交流活動を行っている。事前の話し合い、準備、当日の交流活動、振り返りをすることとし、幼稚園と小学校の教師で考え合いながら交流活動を行った。

最初の交流活動は、1学期の七夕飾りの製作と七夕集会である。七夕は、幼児と児童にとって身近に感じられる我が国の伝統的な行事の一つであり、製作活動については、幼児が日頃から親しんでおり、幼児と児童と一緒に取り組みやすいことから交流活動として取り上げた。

交流活動(七夕飾りの製作)のねらい

共通：活動を通して、伝統行事である七夕飾り作りを楽しむ

幼児：①交流する中で児童に親しみをもち、一緒に活動することを楽しむ

児童：幼児を思いやりながら、楽しく七夕の準備に取り組むことができる

交流の流れ

- 9 : 20 小学校へ入校、教室へ移動
- 9 : 30 今日の活動の確認
- 9 : 35 活動開始、幼児と児童の自己紹介
飾り作り(天の川・貝・提灯・輪飾り)
短冊(児童が幼児の願い事を書く)
- トイレ・水飲み休憩
- 10 : 25 本日の振り返り、まとめ

実際の交流活動の様子

この日は、小学校の正門に登園することになっていた。昨日はとても楽しみにしていたのに、いつもとは違うルートで登園してきたことと、初めての小学校訪問に幼児は少し緊張気味だった。正門で待っている担任や幼稚園の教師の顔を見ると、やっと笑顔が見られた。<略>

席に着いたところで、予定通りに自己紹介の時間を取った。しかし②教室の中に60名以上いたことから、様々な声が飛び交い、聞き取りにくかった。また、全般的に児童ははきはきと大きな声で言うことができていたが、幼児は緊張で声が小さかった。その後、小学校の教師から、「今日は4種類の飾りを小学生が幼稚園生に教えてあげてください」「小学生は幼稚園生に優しくしてあげましょう」「幼稚園生がトイレに行きたくなったら、小学生が一緒に行ってあげましょう」等と細かく説明があった。

その指示のとおり、活動では児童が一人一人の幼児にぴったりと寄りそって、丁寧に教えていられる姿が見られ、幼児も落ち着いた雰囲気で取り組むことができた。しかし、③いつもなら自分でできることも、児童に任せてやってもらっている幼児の姿が見られた。幼児はいつもと違う場で、一生懸命に教えてくれる今日会ったばかりの児童に対して「それできるから自分でやる！」とはなかなか言いにくいようであった。児童が願い事を短冊に書いてくれる活動もあった。幼児の中には願い事を大きな声で伝えられなかったり、言うこと自体を恥ずかしがったりする様子が見られたので、状況に応じて、幼稚園の教師が間に入って橋渡しをした。 <略>

幼稚園の教師は緊張気味の幼児の気持ちを代弁したり、落ち着かない様子の幼児に声を掛けたりしながら、困っていることはないか、児童に思いを伝えることができているかを見るようにした。また、児童の頑張っている姿などを見たときには認める声掛けをした。<略>

- (1) 下線部①のねらいを参考に、交流活動を通して幼児に経験してほしいことを二つ挙げなさい。
- (2) 幼稚園の教師と小学校の教師が幼児の姿を共有する手がかりとして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用している。この交流活動において幼児・児童が何を学んでいるか、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から(A)と(B)について記述しなさい。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	幼児・児童が学ぼうとしている姿
社会生活との関わり	いろいろな人と親しみをもって関わる姿やどのように関わったらよいかということを考える。
言葉による伝え合い	(A)
健康な心と体	(B)

- (3) 下線部②③の様子から、今後の交流活動における指導の改善を図るべきポイントについて、幼児に経験してほしいことを踏まえて、二つ挙げなさい。
- (4) 今後、幼稚園と小学校の教師が交流活動を通して相互理解をより深めていくための手立てとして、どのようなことが考えられるか、一つ挙げなさい。